

(別紙2)

## 審査の結果の要旨

氏名 戴 智軻

本論文は、マスメディアの変容と社会の変動という相互作用関係に立脚して、改革開放以降の中国マスメディアの発展を総合的に考察し、「言論の自由化」「情報の自由化」がどの程度達成されたかを明らかにするとともに、その発展が中国の民主主義社会の実現につながる可能性を展望したものである。序論で問題意識を明らかにしたのち、本論は以下の五章からなる構成をとる。

第一章では、中国マスメディアの発展をめぐるこれまでの先行研究を概観し、従来の規範理論の限界を指摘した上で、中国の現実にあてはまる、有用な分析的枠組みの構築を試みている。一党独裁の開発体制下であり、近似した文化的歴史的土壌を有する台湾とシンガポールをとりあげ、そのマスメディアの発展過程を中国と比較する中で市場と党の相克を論じた。第二章では、市場メカニズムの展開に着目し、中国における市場経済の発展を「形成期」と「成熟期」という二つの段階に分け、それぞれの段階における中国マスメディアの市場化の適応的かつ融合的変容の実質について論じている。第三章では、マスメディアに関する個人指導者の指導理論、統治政党としての共産党の性格変容、国家統治システムとしての政治制度の変化などの側面から、政治体制改革とマスメディアの発展の相互関係について論じている。第四章では、民衆側に立った中国社会の変化とマスメディアの発展の相互関係について論じている。特に社会の成層化に重点を置いて、各階層とマスメディアの利用支配関係に形成された普遍的な特徴と特殊性が指摘されている。終章の第五章では、台湾、シンガポールとの比較を通じて、マスメディアの中国的発展の内実を再度整理したうえで「中国モデル」を提示し、その行方について展望を試みている。イデオロギーの影響力が色あせつつある中国マスメディアの発展モデルは、権威主義モデル、自由主義モデル、社会的責任モデルの各側面を併せ持った独自の実用主義的モデルであり、「民主化なき自由モデル」とでも呼ぶべき方向に変容しつつある。

このように、本論文は、中国におけるマスメディアの発展、民主化過程を、政治体制、経済市場の成長、社会変化等の多岐にわたる側面から考察し、台湾、シンガポールという、同じ一党独裁開発体制下のマスメディアの発展との比較を交えて中国独自の方向性を探った意欲作である。これまで中国のマスメディア研究は、中国国内においてはソビエト共産主義理論を基軸に据えて論じられることが多く、党との関わりや引用資料の面においても数々の制約のもとに記述されていたが、筆者はかなり大胆に中国マスメディアの実態を分析し、また将来的方向性を予測している。中国を熟知した自由主義諸国のマスメディア発展の諸モデルに習熟した中国人によって、中国を離れた環境でのみ可能な労作といえる。市場分析にあたり、引用する経済統計等になお不十分な点はあることも指摘されたが、現状では物理的な制約がある。マスメディアの発展・民主化、政治・経済システムの展開、民衆の意識変容の三者の関係における動態的相互作用の分析を充実させるのもこれからの課題である。本論文にはこのように残された課題もいくつかあるものの、本論文で示した成果と研究手法をさらに発展させるならば、当該研究領域において多大な功績を残すことになろう。そのために必要な視座と学識は、本論文においてすでに十分披露されている。よって、本審査委員会は、本論文が博士(社会情報学)の学位を授与するにふさわしい水準に達しているものと判断する。